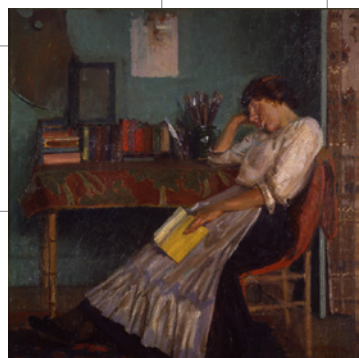


# コレクションの つくりかた つたえかた

日本と西洋の  
近代美術

Way of making museum collections and  
how to communicate them

2024.4.20 sat - 6.23 sun



## 趣旨・内容

本年、当館は開館50年を迎えます。長い月日をかけて収集が重ねられたコレクションは現在約2,100点を数え、日本の近代洋画、西洋の近代美術、国内外の現代美術、日本と中国の古美術、日本画、染織工芸など幅広い分野にわたります。本展では、そのなかから近代洋画と西洋の近代美術のコレクションを取り上げ、代表的な作品約100点をご紹介します。美術作品はそれぞれの作者の芸術家人生の断片であり、唯一無二の個性と魅力を持っています。制作や収集背景をひもとく解説とともに、作品との対話をお楽しみください。

また、美術館はコレクションした作品の魅力を広く伝える役割を担っています。今回は、収蔵作品の公開や展覧会出品について、さらに作品鑑賞をサポートするさまざまな教育ツールの開発など、コレクションのコミュニケーションについてもご紹介します。

### I コレクションのはじめかた 郷土 -ホームグラウンドをみつめる

開館準備の段階からまとまった数が寄贈された湯浅一郎、山口薫、開館時に寄贈された福沢一郎の作品に加え、開館後、鶴岡政男、オノサト・トシノブの作品が収蔵され、郷土作家のコレクションの核が完成します。これらの作家のコレクションは、現在進行形で収集が続けられ、作家像を更新しつづけています。

### II 巨匠たちの断片をあつめる -日本と西洋の近代美術

開館と同時に収集を開始した群馬以外の日本の近代美術作品と、80年代から本格的に収集がはじまった西洋の近代美術作品を紹介します。

#### II-I 郷土 ホームグラウンドから日本をみる

開館とともに、当館はより広く群馬出身の作家の作品収集を行いながら、徐々に近代の美術史を代表する作家たちの作品の系統的な収集に着手します。安井曾太郎、岸田劉生、佐伯祐三、岡鹿之助などの戦前から戦後にかけての重要作家たちの作品です。これらは、県出身作家の作品を、郷土という視点から、より大きな文脈である日本美術史のなかに位置付けるための収集でした。

#### II-II 日本からヨーロッパをみる

1980年頃からルオー《秋》、《鏡の前の裸婦》(水彩)、版画集『ミセレーレ』の収集にはじまり、フォーヴィスムのマルケ、ヴラマンク作品、続いて世紀末に活躍したルドンやムンクの版画を収蔵します。さらに「エコール・ド・パリ」展(1984年)の開催をきっかけとしてローランサン、藤田嗣治などの作品が加わります。90年代には、群馬県企業局の寄託や基金購入により、ルノワール、モネなどの印象派からシャガール、ピカソなどのキュビズムの作品がそろうこととなりました。今回は、当館が収蔵するムンクの版画コレクションより3点(前後期あわせて6点)と、版画の主題と深く関わるムンクの夏の家を描いた油彩の小品《オースゴールストランの夏》をあわせて展示します。

### III コレクションのつたえかた

美術館は幾世代にもわたってコレクションを形成していくとともに、その魅力を広く伝える役割を担っています。本章では、コレクションに関わる当館の活動をいくつかご紹介します。最も基本的な実践である常設のコレクション展示での作品公開や、展覧会への出品について解説し、最後に10年以上にわたって作り続けられてきた、鑑賞サポートツールをご覧ください。

\*会期中、版画作品等の展示替えがあります。



## 開催概要

展覧会名	開館 50 周年記念 コレクションのつくりかた／つたえかた —日本と西洋の近代美術— Ways of making museum collections and how to communicate them
会期	2024 年 4 月 20 日（土）－ 6 月 23 日（日）
休館日	毎週月曜日（ただし 4 月 29 日、5 月 6 日は開館）、5 月 7 日（火）
会場	展示室 1
観覧料	一般 600（480）円、大高生 300（240）円 *（ ）内は 20 名以上の団体割引料金 *中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者 1 名は無料 *コレクション展示（2 階展示室）は改修工事のためご覧いただけません。
主催	群馬県立近代美術館

## 関連事業

記念講演会 会場：2 階講堂 \*申込不要、定員 100 名、参加無料

- 「The Museum of Modern Art をめざして  
— 群馬県立近代美術館のコレクションで見るモダンアートの歴史」  
講師：岡部昌幸（当館特別館長、帝京大学名誉教授）  
日程：4 月 20 日（土）午後 2 時－3 時 30 分
- 「うつりかわる藤田嗣治像—群馬近美《人形を抱く少女》收藏からの 32 年」  
講師：林 洋子（美術史家、兵庫県立美術館館長）  
日程：5 月 25 日（土）午後 2 時－3 時 30 分
- 「ミュージアムの中で、‘さわる’からはじまる時間をデザインする」  
講師：齋藤名穂（建築家、デザイナー、UNI DESIGN 主宰）  
日程：6 月 9 日（日）午後 2 時－3 時 30 分

学芸員による作品解説会 会場：展示室 1 \*申込不要、要観覧料  
日時：5 月 1 日（水）、5 月 18 日（土）、6 月 16 日（日）午後 2 時－3 時

群馬県立近代美術館 50 周年記念 近美 × 館美 連携イベント

### 展覧会チケットで記念缶バッジをプレゼント

本展会期中（4/20～6/23）、本展と群馬県立館林美術館の「シンフォニー・オブ・アート」展の両方を観覧されたお客さまに、50 周年記念オリジナル缶バッジをプレゼントします。  
詳細は館 HP をご覧ください。 <https://mmag.pref.gunma.jp/>

広報用画像



湯浅一郎《徒然》  
1904年、油彩・カンヴァス



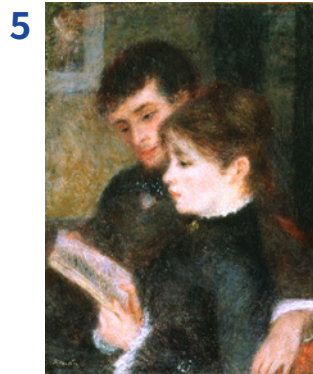
湯浅一郎《パリのアトリエにて》  
1909年、油彩・カンヴァス



岸田劉生《五月の砂道》  
1918年、油彩・カンヴァス



佐伯祐三《パリ郊外風景》  
1924年、油彩・カンヴァス



ピエール＝オーギュスト・ルノワール  
《読書するふたり》  
1877年、油彩・カンヴァス



クロード・モネ《ジュフォス、夕方の印象》  
1884年、油彩・カンヴァス  
(群馬県企業局寄託作品)



エドヴァルト・ムンク  
《オースゴールストランの夏》  
1889年頃、油彩・板



マリー・ローランサン  
《ブルドッグを抱いた女》  
1914年、油彩・カンヴァス



ラウル・デュフィ  
《ポール・ヴィヤール博士の家族》  
1927-33年頃、油彩・カンヴァス



鑑賞サポートツール  
「赤のさわるコレクション」(20点組)より9点  
(2013年、デザイン：齋藤名穂) 撮影：齋藤名穂

\*キャプション・クレジットは広報用画像申込書でご確認ください。

開館 50 周年記念  
コレクションのつくりかた／つたえかた ー日本と西洋の近代美術ー  
Ways of making museum collections and how to communicate them

広報用画像・読者プレゼント用招待券申込書

FAX : 027-346-4064 E-MAIL : bijutsu@pref.gunma.lg.jp

開館 50 周年記念「コレクションのつくりかた／つたえかたー日本と西洋の近代美術ー」の広報用画像 1～10 を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、上記 FAX 番号または E メールにてお申し込みください。

貴社名：

ご担当者名：

貴媒体名：

E-mail：

TEL：

FAX：

掲載予定日：

読者用招待券： 希望する（5組10枚） 希望しない

招待券送付先：

ご希望の画像番号に印をお付けください。

\*所蔵標記のないものはすべて群馬県立近代美術館蔵

- 1 湯浅一郎《徒然》1904年、油彩・カンヴァス
- 2 湯浅一郎《パリのアトリエにて》1909年、油彩・カンヴァス
- 3 岸田劉生《五月の砂道》1918年、油彩・カンヴァス
- 4 佐伯祐三《パリ郊外風景》1924年、油彩・カンヴァス
- 5 ピエール＝オーギュスト・ルノワール《読書するふたり》1877年、油彩・カンヴァス
- 6 クロード・モネ《ジュフォス、夕方の印象》1884年、油彩・カンヴァス（群馬県企業局寄託作品）
- 7 エドヴァルト・ムンク《オースゴールストランの夏》1889年頃、油彩・板
- 8 マリー・ローランサン《ブルドッグを抱いた女》1914年、油彩・カンヴァス
- 9 ラウル・デュフィ《ポール・ヴィヤール博士の家族》1927-33年頃、油彩・カンヴァス
- 10 鑑賞サポートツール「赤のさわるコレクション」（20点組）より9点  
（2013年、デザイン：齋藤名穂）撮影：齋藤名穂

広報用画像の使用に関するお願いとご注意

この度は開館 50 周年記念「コレクションのつくりかた／つたえかた」をご紹介いただき誠にありがとうございます。貴媒体にて本展の作品画像を使用される場合、下記の規定に基づいてご使用をお願い申し上げます。

- 1) 作品は全図で使用してください。トリミング、文字のせ等はお控えください。
- 2) ご使用の際は、必ずクレジットを記載ください。
- 3) 作品画像のご使用は本展の告知を目的とした記事・番組に限ります。また、本展終了後の掲載、放送などは原則としてご容赦願います。
- 4) デジタル画像は全て jpg で、メール送信いたします。
- 5) ご掲載紙・誌を 1部ご寄贈いただけますようお願いいたします。

報道関係のお問い合わせ

群馬県立近代美術館 370-1293 群馬県高崎市綿貫町 992-1  
広報担当 E-MAIL : bijutsu@pref.gunma.lg.jp  
TEL : 027-346-5560 FAX : 027-346-4064